

第4学年 実践事例

主題名 みんなのために [内容項目 4-(2)]

資料名 神戸のふっこうは、ぼくらの手で 出典『みんなのどうとく』(学研)

指導者 七里 美佳

日時 平成23年5月24日(火) 第5校時

1. ねらい

自分の役割を果たし、力を合わせて働くことの大切さを理解し、進んでみんなのために役に立とうとする意欲を育てる。

2. 主題設定の理由

〔ねらいとする価値〕

自分自身のためだけに生きている時、むなしさや殺伐さを感じることもある。ものがあふれ豊かな“先進国日本”と言われているにも関わらず、人を必要以上に非難したり自分の利益を追求し続け他を考えられないかたまりする社会になってしまっているのは、まさに「人とのつながり」の中に自分を感じられないからである。人に感謝され、頼りにされ、自分は何かの役に立てている時、人は、「人とのつながり」を感じることができる。そして、そのなかにこそ、自分が存在する意味と価値を心から実感することができる。まさに、人は人によって生かされているのである。

人とは、家族、友人、という身の回りのものから学級、学校、地域、国、世界へと広がる社会である。1学期の学級作りの基盤となるこの時期に、一人ひとりが、自分の学級、学校のために働く良さを維持し大切にしようとする意識を育み、自分の役割を果たし、「協力し、支え合い、共に生きる」心情を広げたい。

〔児童の実態〕

本学級の児童は、明るく素直で、自分の得意なことは、とても前向きに行動することができる。与えられたことは、最後までやりとげようとする子が多い。4年生になり、自分たちで自分たちのクラスを作るため、まずはクラスを盛り上げるための係を考えた。どの子もやる気はあるが、①自分に何ができるか、どんなことをすればよいか自分で見つけ実行できる子②指示されたことを実行できる子③指示されても実行できない子、と差がある。それゆえ、係活動では、いつ何をすればいいか明確にするための表をつくった。しかし、クラスのための自立的な活動になるまでの道のりは遠い。本時では、自分にできることを一生懸命することで誰かの役に立ち、それが自分の達成感・周りの幸せへとつながる良さを実感してほしい。

〔資料の活用について〕

本資料である『神戸のふっこうはぼくらの手で』は、阪神大震災で被災し体育館で避難生活を送っている時の話である。主人公『ぼく』は、地震で被災し、学校が家になる。そこで大浜先生と出会い寒い中の避難生活が始まる。三日目、大便が山盛りになっている便器をもくもくと掃除する先生の姿にびっくりする。ある寒い朝、1年生ぐらいの女の子が牛乳瓶を温める仕事をし続ける姿を見て、『ぼく』は、申し訳ない気持ちになってくる。すると、くまのぬいぐるみを地震でなくし、泣き叫ぶ小さ

い子の姿を見る。『ぼく』は、はっとし、必死で本を探す。小さい子のにこにこ顔を見て「そうだ。これだ。」と気づく。『ぼく』は他の子どもたちに声をかけ、「小さい子のためになにかできることをしよう」と提案し実行に移す。そのうち小さい子だけでなく、お年寄りの世話をする係もでくるようになった。自分の家や家族を無くし、夢や未来への希望が絶たれてもなお、「みんないきいきしてきたようだ」「きみたちがいるかぎり、神戸はりっぱに立ちなおる」という言葉に励まされる。という話である。

この春、東日本大震災で地震の恐ろしさを感じる子は大勢いたと考える。当たり前の日常があつという間に消えてしまう絶望的な現実であっても、生きていこうとする強さは、何によって与えられるのであろう。あえて、この時、この資料を通して、人のために自分ができること精一杯やりきることのすばらしさを実感してほしいと思う。

[研究テーマに関わって]

人とのつながりを大切にし、よりよい生き方を求める実践力の育成
～言語感覚を磨き、自尊感情を高める取組み～

◆ねらいにせまるための手立て

- ① 2人組での話し合い・・・自分の考えを発表することに対して苦手意識や不安感を持つ児童のために、安心して発表しやすい雰囲気をつくる工夫の一つである。児童の実態としては、考えを深める子もいれば、相手がどう思っているかを聞くだけの子もいる。それぞれの児童の実態は違うが、相手の考えを聞いて自分の考えを深めたり、新しい発見をするというレベルを目指している。それゆえ、なぜそう思ったか理由を付け加えて言えるよう日常の学習でも取り入れ練習している。
- ② 心情曲線・・・主人公の気持ちの盛り上がりをつかめるように、展開の流れによって、使用する。
- ③ 意見の広がる切り返し・・・個人に対するものではなく、全体のものにできるよう「グー」や「チョキ」で意思表示した子の発言をとりあげ、つなげていく。だれが、どんなことが、なぜそうおもうのか聞き、他の人はどうなのかを全体に聞き返したい。
- ④ グー・チョキ・パーでの意思表示・・・グー・・・「同じです、そう思います」、チョキ・・・「つけたしです」パー・・・「他の意見です」の意味で使用する。どんな発問に対しても、自分の考えを表現するために取り入れた活動である。考えを持っていない児童でも、他の児童の考えを聞いてどう思ったかが表現でき、また、誰がどんなことを思っているかを誰でも明確にわかることができる。しかし、同じ「グー」でもどのようなところが同じなのか、「グー」「チョキ」同士のつながりが課題となる。

